

天声人語

言葉の真価は、誰が言ったかではなく、誰が聴いたかで定まる。中高生がとつておきの言葉を紹介する「私の折々のことばコンテスト」の秀作を読んで、そう思う。今回は3万を超す応募があった▼最優秀賞は熊本県の農業高校に通う遠山桃々乃さんの「あんたの根っこ見つけて水やり続けるねん」。大阪市出身。農業を学びたいのに親も先生も賛成してくれない。3年間、一緒に花壇の世話をした用務の男性だけが「自分の根は自分にしかわからへんねや」と応援してくれた▼意外にも、名言の主は本紙の取材に「そんなこと言うたかな」と失念の体。でも遠山さんはその助言を受け止め、いま阿蘇山麓で充実の日々を送る▼「全力で恥をかけ」で佳作に選ばれたのは、埼玉県の中学生井上真梨子さん。生徒会の役員になれたが、全校集会の司会で失敗する。予定にあった先生の話をいくつか飛ばしてしまった。「落ち込んだけど、生徒会室の黒板に書いてあった先輩の言葉に救われた。恥をバネにしようと思いました」▼神奈川県の高校生坪井菜那子さんは、祖父を亡くした昨夏の思いをつづる。母の友人で、津波に親をさらわれた女性からLINEで短文が届いた。「送れる幸せを噛みしめてください」。読んで、愛する家族に別れを告げることの重みを実感したという▼迷い、躊躇^{ちゆうじよ}、別れ。10代が選んだ言葉にはどれも物語がある。ひるみながらも全力で人生にぶつかっていく。真剣に悩むからこそ、言葉が心の奥深くまで届く。